作成者:武田　和代

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報処理概論		歯科衛生士学科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	武田　和代

授　業　の　概　要

1.タッチタイピングをマスターし、適切なスピードで正確に文章を入力する練習を行う
2.Wordの基本的操作技術を習得する
3.Wordの機能を効率的に使用し、見栄えのよいビジネス文書を作成する

授業終了時の到達目標

1.Wordの基本的な機能を理解し操作することができる
2.ビジネス文書の基本を理解し、Wordの機能を使用して文書の作成ができる
3.350字/10分以上のタイピングスピードを身につける

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	入力練習(1)	1.タッチタイピング 2.ホームポジション 3.Wordの基本
2	入力練習(2)	1.タッチタイピング 2.ホームポジション 3.Wordの基本
3	入力練習(3)	1.タッチタイピング 2.ホームポジション 3.Wordの基本
4	ビジネス文書の基本 Wordの基本機能(1)	1.ページ設定 2.印刷 3.フォントサイズ、文字飾り（アンダーライン、太字など）
5	入力練習	入力練習
6	入力練習 Wordの書式設定（文字揃え） コピー、切り取り、貼り付け	Wordの基本機能を利用した基本的なビジネス文書の作成
7	ビジネス文書作成練習	Wordの基本機能を利用した基本的なビジネス文書の作成
8	ビジネス文書作成練習	Wordの基本機能を利用した基本的なビジネス文書の作成
9	表作成練習	表作成練習
10	ビジネス文書作成練習	やや高度な表作成を含めたビジネス文書の作成
11	ビジネス文書作成練習 図形描画	ビジネス文書の作成練習 図形描画
12	はがき作成	
13	はがき作成練習	はがき作成練習

回	テ　ー　マ	内　　容
14	ビジネス文書作成練習(6)	表作成・図形を含むビジネス文書の作成
15	期末試験	

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
自作プリント	期末試験 実習・実技評価 授業態度	50.0% 30.0% 20.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえて、配布プリント等で予習を行う

作成者:市原　久弓

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
接遇マナー		歯科衛生士学科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	市原　久弓

授　業　の　概　要

１．ビジネス社会･企業などの組織の一員として活躍するために必要な社会常識や心構えを学ぶ
２．職場でよい人間関係を築くために必要なコミュニケーションのスキルを学ぶ
３．業務処理に必要な接遇マナーやビジネスマナーを学ぶ

授業終了時の到達目標

１．社会の仕組み･経済用語・ビジネス用語を理解して、社会人として必要な基本的知識を習得している
２．社内外の人との良好な人間関係を築くために、適切な敬語表現を活用し、正確なビジネス文著を作成し、さまざまなビジネスの場での状況対応ができる知識･技能を身につけている
３．指示された仕事を遂行するために、職場のマナー･来客応対･電話応対の基本、結婚･弔事のマナー、文書の取り扱いなどの知識･技能を身につけている

実務経験有無	実務経験内容
有	役員秘書として5年の勤務経験、医療現場での勤務経験1年 実社会で必要とされるマナー全般と医療人としての心構えを実践を用いて指導する

時間外に必要な学修

1.配られたプリント等の記入漏れなどがないか確認し、適切にファイリングする
2.前回学んだことを復習しておく

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	動機付け マナーとは	1.接遇マナーを学ぶ理由 2.常識とマナーの違い 3.医療接遇マナーとは 4.ケアコミュニケーション
3～4	言葉遣いのマナー	1.傾聴の重要性 2.敬語の知識 3.相手が受け入れてくれる話し方
5～6	ワンランク上の話し方	1.コンビニ言葉を遣わない 2.語尾を丁寧にする 3.あとよし言葉 4.ポジティブに話す
7	職場のマナー	1.職場の組織 2.公私のけじめ 3.求められる人材 4.仕事と成長
8	来客応対のマナー	1.受付の流れ 2.受付の要領 3.名刺の知識 4.案内の要領
9～11	電話応対のマナー	1.電話応対の重要性 2.電話応対の目的とポイント 3.取次ぎの電話の要領 4.伝言メモの知識
12～14	社会人常識マナー検定対策	1.過去問題を解く 2.解答、解説

回	テ　ー　マ	内　　容
15	復習と確認テスト	1.前期学んだことの復習 2.確認テスト

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
社会人常識マナー検定試験３級　最新過去問題集(全国経理教育協会) プリントほか	授業態度 期末試験	40.0% 60.0%	【準備学習】前回学んだところをプリント等を用いて復習しておくこと

作成者:江口　覚

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学		歯科衛生士学科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	江口　覚

授　業　の　概　要

人体の各種の機能とメカニズムを理解すること。個体を構成する組織・器官がどのように統合され・協調されているかを理解すること。

授業終了時の到達目標

人体の各種の機能とメカニズムを適切な生理用語を用いて説明できること。ならびに個体の健康維持のために、これを構成する組織・器官どのように統合され・協調されているかを理解することで、歯科衛生士として適切に対処できることを目標とする。

実務経験有無	実務経験内容
有	江口覚:歯科医師として３０年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし解剖学の講義を行う

時間外に必要な学修

【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	細胞と組織、構造と機能	細胞（細胞の構造と機能）、組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）骨格系概説（骨の機能、骨の構造、骨の形態、骨の連結、体の部位による骨の分類）、骨の発生、頭蓋骨、体幹骨、上肢骨、下肢骨
3～4	筋と運動	筋の形状と分類、筋の構造と機能、体の各部位の筋系（頭部の筋、頸部の筋、背部の筋、胸部の筋、腹部の筋、上肢の筋、下肢の筋）、運動（運動ニューロン、反射と随意運動、姿勢調節）、筋電図
5～6	消化と吸収	消化器の構造（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜）
7～8	循環	血管の構造、心臓（心臓の位置と形態、心臓の内部構造、心臓壁の構造、心臓の血管、動脈系、静脈系、胎児の循環系、リンパ系（リンパ管、リンパ節、胸腺、脾臓）
9	神経系	神経系の構成、中枢神経系（脊髄、延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳、脳波、高次機能）、脳脊髄膜（硬膜、クモ膜、軟膜）、脳の血管、末梢神経系、脳神経、脊髄神経系、自律神経系、神経系の主な伝導路
10	神経系	神経系の構成、中枢神経系（脊髄、延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳、脳波、高次機能）、脳脊髄膜（硬膜、クモ膜、軟膜）、脳の血管、末梢神経系、脳神経、脊髄神経系、自律神経系、神経系の主な伝導路
11	呼吸	呼吸、呼吸器の構成（上気道、下気道・肺）、胸郭の構造
12	感覚	外皮（皮膚、粘膜、皮膚の感覚装置）、特殊感覚器の構造（視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器）
13	排泄	排泄とは、排便、皮膚からの排泄（発汗）、排尿、膀胱からの排尿の仕組み（排尿反射）
14	内分泌	内分泌器官とホルモン、内分泌器官の構造（下垂体、甲状腺、上皮小体（副甲状腺）、膵臓、副腎）、性腺、精巣、卵巣、松果体

回	テ　ー　マ	内　　容
15	生殖	男性生殖器、女性生殖器

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版）	出席率 確認テスト 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

作成者:俵　宏彰

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
組織・発生学		歯科衛生士学科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	俵　宏彰

授　業　の　概　要

組織と発生について
顔面と口腔の発生について
歯および歯周組織の発生と組織学的特徴について

授業終了時の到達目標

人体の骨格をなす組織とその発生について理解を深める
顔面と口腔の発生について学ぶことで、口腔内に発生する疾患を理解するための礎を築く
歯と歯周組織の組織学的特徴の理解を深める

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

回	テ　ー　マ	内　　容
1	細胞と組織	1. 細胞（構造、増殖と寿命、基本的生理機能） 2. 組織（上皮細胞、支持組織、筋組織、神経組織）
2	発生	1. 染色体と減数分裂　2. 精子と卵子の発生 3. 受精と着床　4. 胚葉形成及び胎児の成長
3	顔面と口腔の発生	鰓弓、顔面と口唇、口蓋と鼻腔、舌、腺の形成
4	顔面と口腔の発生	鰓弓の形成、鰓弓とは、顔面と口唇の形成、前頭隆起、内外側鼻突起、口蓋、鼻腔、腺の形成
5	歯と歯周組織の発生	1. 先行歯の発生　2. 代生歯の発生　3. 歯の萌出
6	歯および歯周組織の構造と機能	1. エナメル質　2. 象牙質　3. セメント質　4. 歯根膜 5. 歯槽骨　6. 歯肉
7	歯および歯周組織の構造と機能	セメント質　セメント質の分類　セメント質の構造　歯根膜　歯根膜の機能　歯根膜の構造　歯槽骨　歯肉
8	期末試験	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
歯科衛生士教本　解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版株式会社） 歯科衛生士教本　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版株式会社）	出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

作成者:江口　覚

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生理学		歯科衛生士学科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	江口　覚

授　業　の　概　要

人体の各種の機能とメカニズムを理解すること。個体を構成する組織・器官がどのように統合され・協調されているかを理解すること。

授業終了時の到達目標

人体の各種の機能とメカニズムを適切な生理用語を用いて説明できること。ならびに個体の健康維持のために、これを構成する組織・器官どのように統合され・協調されているかを理解することで、歯科衛生士として適切に対処できることを目標とする。

実務経験有無	実務経験内容
有	江口覚：歯科医師として３０年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし生理学の講義を行う

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	筋と運動	筋の構造と機能（頭部の筋、頸部の筋、背部の筋、胸部の筋、腹部の筋、上肢の筋、下肢の筋）、運動（運動ニューロン、反射と随意運動、姿勢調節）、筋電図
2	消化と吸収	消化と吸収の意義（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜）、口腔での消化、胃の機能（胃の運動、胃液）、小腸の機能（小腸の消化液、小腸の運動、腸での吸収）、大腸の機能（大腸での吸収、大腸の運動、排便反射）
3	循環	血管の機能（血圧、血液量の調節、血圧の調節、ショック）、血液（血液の成分、血液の機能、血液の凝固と溶解、血液型と輸血）、心臓（心臓の拍動のコントロール、心臓の活動電位と心電図）、動脈系、静脈系、胎児の循環系、リンパ系（リンパ管、リンパ節、胸腺、脾臓）
4	神経系	中枢神経系（脊髄、延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳、脳波、高次機能）、脳脊髄膜（硬膜、クモ膜、軟膜）、脳の血管、末梢神経系、脳神経、脊髄神経系、自律神経系、神経系の主な伝導路
5	呼吸	胸郭の構造と換気の仕組み、肺気量と換気量、肺胞および組織におけるガス交換、血液中のO_2とCO_2の運搬
6	感覚	感覚の基本的性質、体性・内臓感覚（皮膚の感覚、内臓の感覚、痛覚）、外皮（皮膚、粘膜、皮膚の感覚装置）、-特殊感覚器の構造と機能（視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器）
7	排泄・体温	排泄とは、排便、皮膚からの排泄（発汗）、排尿、膀胱からの排尿の仕組み（排尿反射）、体熱の産生、体熱の放散、体温の調節、体温の変動

回	テ　ー　マ	内　　容
8	内分泌・生殖	内分泌器官とホルモン、内分泌器官の構造と機能（下垂体、甲状腺、上皮小体（副甲状腺）、血中カルシウム濃度の調節、膵臓、副腎）、性腺、精巣、卵巣、松果体、歯とホルモン、男性生殖器、女性生殖器、性周期、受精と妊娠、分娩と乳汁分泌

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版）	出席率 確認テスト 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:松香　芳三

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
口腔解剖学		歯科衛生士学科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	23回	3単位（46時間）	必須	松香芳三／福井裕美

授　業　の　概　要

①歯科衛生士として歯の形態を立体的に学ぶことは非常に重要である。特に、口腔内で見えない歯根の形態を理解することは適切なスケーリングを行う際に必須の知識となる。本授業を通して、学生は歯の形態を理解する。
②口腔付近の解剖学

授業終了時の到達目標

①教科書や配布資料、拡大模型を参考にして、歯のスケッチができる。歯の解剖学的名称を説明できる。石膏棒を彫刻するための器具を正しく安全に使用できる。石膏棒を彫刻することができる。
②口の中、歯だけでなく、頭頸部の筋肉や神経、血管系と合わせて知識として持つ。

実務経験有無	実務経験内容
有	松香芳三：歯科医師として３３年の実務経験 福井裕美：歯科医師として２４年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし口腔解剖学の講義を行う

時間外に必要な学修

【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

回	テ　ー　マ	内　　容
1	歯の形態・名称	上顎右側中切歯と上顎右側第一大臼歯のスケッチ
2	歯型彫刻	上顎右側中切歯の歯型彫刻
3	歯型彫刻	上顎右側中切歯の歯型彫刻
4	歯型彫刻	上顎右側中切歯ならびに上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻
5	歯型彫刻	上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻
6	歯型彫刻	上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻
7	歯型彫刻	上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻
8	実習試験	歯の形態の理解を問う
9～10	口腔とは	1.口腔付近の表面 2.口腔前庭1）、2）、3） 3.固有口腔1）、2）、3）
11～14	口腔を構成する骨	1.頭蓋の概要1）～6） 2.口腔をつくる骨1）～4）
15～16	頭頸部の筋と作用	1.顔面筋1）～5） 2.咀嚼筋1）、2） 3.舌筋 4.頸部の筋1）～4） 5.顎下三角・オトガイ下三角 6.翼突下顎隙・翼突下顎縫線
17	顎関節	構造と機能

回	テ　ー　マ	内　　容
18～20	口腔付近の脈管学	1.動脈1）～3） 2.静脈1）、2） 3.リンパ1）～3）
21～22	神経	1.脳神経1）～6） 2.頭頸部の脊髄神経 3.自律神経1）～4）
23	期末テスト	期末テスト

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 模型	出席率 授業態度 期末試験 課題・レポート	5.0% 5.0% 50.0% 40.0%	

作成者:佐藤　央一

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
口腔機能学		歯科衛生士学科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	佐藤　央一

授　業　の　概　要

1.口腔解剖学・生理学に基づいた口腔機能の理解
2.臨床現場で求められるであろう知識の習得

授業終了時の到達目標

1.発話、咀嚼嚥下についての口腔機能を述べることができる
2.臨床現場での口腔機能を観察、評価することができる

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	１．歯と口腔の感覚 確認テスト	・基礎的な機能面の理解と臨床現場での活用について学ぶ ・講義終了時または翌週の講義はじめに確認テストを実施し、知識習得の確認を行う
2～3	２．味覚と嗅覚 確認テスト	・基礎的な機能面の理解と臨床現場での活用について学ぶ ・講義終了時または翌週の講義はじめに確認テストを実施し、知識習得の確認を行う
4～5	３．咬合と咀嚼・吸綴	・基礎的な機能面の理解と臨床現場での活用について学ぶ ・講義終了時または翌週の講義はじめに確認テストを実施し、知識習得の確認を行う
6～8	４．嚥下と嘔吐 確認テスト	・基礎的な機能面の理解と臨床現場での活用について学ぶ ・講義終了時または翌週の講義はじめに確認テストを実施し、知識習得の確認を行う
9～11	５．発声 確認テスト	・基礎的な機能面の理解と臨床現場での活用について学ぶ ・講義終了時または翌週の講義はじめに確認テストを実施し、知識習得の確認を行う
12～13	６．唾液 確認テスト	・基礎的な機能面の理解と臨床現場での活用について学ぶ ・講義終了時または翌週の講義はじめに確認テストを実施し、知識習得の確認を行う
14	まとめ	・基礎的な機能面の理解と臨床現場での活用について学ぶ ・講義終了時または翌週の講義はじめに確認テストを実施し、知識習得の確認を行う
15	期末テスト	期末テスト

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 ゼムリン言語聴覚学の解剖生理原著第4版 臨床家のための口腔顎顔面解剖アトラス	出席率 授業態度 確認テスト 期末試験	5.0% 5.0% 15.0% 75.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:松澤　鎮史

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
病理学		歯科衛生士学科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	松澤　鎮史

授　業　の　概　要

全身および口腔の疾病の原因、発生機序、転帰を学ぶ

授業終了時の到達目標

疾患の原因、経過と転帰を理解し説明できる

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

範囲が広いため、教科書を用いた予習、復習を行ってください。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	病理学序論と病因論	病理学とは、内因と外因
2	遺伝性疾患と奇形	先天異常、奇形の発生と病因
3	循環障害	体液と血液の循環
4	代謝障害と退行性病変	細胞障害、萎縮や細胞死
5	増殖と修復	肥大と増生、創傷治癒
6	炎症と免疫応答異常	炎症の分類、アレルギー
7	腫瘍	腫瘍の発生、種類
8	歯の発育異常と損傷	歯の形成不全、着色・付着物
9	う蝕、象牙質・歯髄複合体の病態	う蝕の疫学、歯髄炎
10	歯周組織の病態	根尖部歯周組織の病態、辺縁部歯周組織の病態
11	口腔粘膜の病変	口腔粘膜の特徴、ウイルス感染
12	口腔領域の嚢胞と腫瘍、口腔癌	歯原性嚢胞、癌腫と肉腫
13	顎骨の病変、唾液腺の病変	骨髄炎、唾液腺腫瘍
14	口腔領域の奇形、口腔組織の加齢変化	顔面と口腔の披裂、硬組織の変化

回	テ　ー　マ	内　　容
15	期末試験	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
病理学・口腔病理学（医歯薬出版株式会社）	出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:廣島　佑香

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
微生物学		歯科衛生士学科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	廣島　佑香

授　業　の　概　要
感染症の原因である微生物の種類と特性ならびに生体の防御機構を理解し、感染症の基礎的な知識、理論を身につける。 また口腔細菌の特徴と病原性を理解する。

授業終了時の到達目標
学んだ知識を実際の診療、予防処置に応用できるようにする。

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	微生物学総論	疾病と微生物、感染と感染症について
2	微生物各論	微生物の分類、細菌の構造と増殖について
3	微生物各論	主な病原微生物について
4	免疫学	宿主防御機構、免疫機構、アレルギーについて
5	口腔微生物	口腔常在細菌叢、デンタルプラークについて
6	う蝕、歯周病	う蝕、歯周病と微生物について
7	化学療法、院内感染対策	主な化学療法薬の種類と特徴について 院内感染の原因と予防法について
8	期末試験	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本　微生物学（医歯薬出版）	出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:瀬川　陽美

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
薬理学		歯科衛生士学科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	瀬川　陽美

授　業　の　概　要

1.薬理学の総論：薬物の作用、薬物動態、薬物の適用方法の種類と特徴、薬物の副作用、有害作用、薬物と薬事関係法規など、薬理学に関する基本的事項を理解する。
2.各論：神経系、循環器系、呼吸器系、消化器系、血液に作用する薬物、悪性腫瘍を薬、代謝性疾患治療薬、抗感染症薬、歯内療法薬、歯周疾患治療薬等において、使用される薬物の作用機序、効能・効果、副作用等について、理解する。

授業終了時の到達目標

1.医療従事者として、薬物の有用性と危険性を把握し、歯科衛生士としての業務を通じて、質の高い医療を提供する。
2.歯科衛生士国家試験に合格するレベルの学力を体得する。

実務経験有無	実務経験内容
有	

時間外に必要な学修

［準備学習］
次回の授業内容について、教科書を用いて予習する。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	（総論） 1章　薬物の作用 2章　薬物動態	1章　薬物療法、薬理作用の基本形式、薬物の用量と作用等 2章　薬物の生体膜通過様式、薬物動態等
2	（総論） 3章　薬物の適用方法の種類と特徴 4章　薬物の作用に影響を与える要因	3章　薬物の適用方法の種類と特徴、薬物の経口投与と注射の利点と欠点等 4章　薬効に影響する因子と生体の感受性等
3	（総論） 5章　薬物の副作用、有害作用 6章　医薬品を適用する際の注意	5章　歯科領域における薬物による副作用、有害作用等 6章　薬物投与における妊婦・授乳婦、乳幼児、小児の特徴等
4	（総論） 7章　薬物の取扱 8章　薬物と法律、医薬品開発	7章　薬物の剤型、処方箋の記載事項等 8章　医薬品医療機器等法、日本薬局方、医薬品の分類、毒薬、劇薬の表示等
5	（各論） 1章　ビタミンとホルモン 2章　末梢神経系 3章　中枢神経系に作用する薬物	1章　主なビタミン、ホルモンの薬理作用、カルシュウム代謝に関与するビタミン、ホルモン 2章　末梢神経系の構造と機能等 3章　全身麻酔薬の働き、中枢神経興奮薬の働き等
6	（各論） 4章　循環器系 5章　腎臓 6章　呼吸器系	4章　高血圧治療薬、不整脈治療薬、心不全治療薬等 5章　主な利尿薬とその作用機序等 6章　主な気管支喘息治療薬、鎮咳薬等
7	（各論） 7章　消化器系 8章　血液 9章　免疫と薬	7章　消化性潰瘍治療薬の作用機序等 8章　止血機構、主な局所性止血薬等 9章　免疫増強薬の適応症と主な薬物等
8	（各論） 10章　悪性腫瘍と薬 11章　代謝性疾患治療薬	10章　良性腫瘍と悪性腫瘍の違い、主な抗悪性腫瘍薬と作用機序等 11章　糖尿病治療薬、骨粗鬆症治療薬等

回	テ　ー　マ	内　　容
9	（各論） 12章　炎症と薬 13章　痛みと薬 14章　局所麻酔薬	12章　炎症の五大徴候、炎症のケミカルメディエーター、ステロイド性及び非ステロイド性抗炎症薬と作用機序等 13章　麻酔性及び非麻酔性鎮痛薬の働き等 14章　局所麻酔薬の作用機序等
10	（各論） 15章　抗感染症薬	15章　抗感染症薬の作用機序、副作用、主なペニシリン系抗菌薬並びにセフェム系抗菌薬、アミノグリコシド系抗菌薬、テトラサイクリン系抗菌薬等、作用機序及び副作用等
11	（各論） 16章　消毒に使用する薬 17章　う蝕予防薬 18章　歯内療法薬	16章　消毒薬の作用機序、消毒薬の効果に影響を与える因子、消毒薬の化学的な性質等 17章　フッ化物のう蝕抑制機序、歯面塗布に使用するフッ化物等 18章　歯髄の保存療法の用いる薬物、感染根管治療に用いる薬物等
12	（各論） 19章　歯周疾患治療薬 20章　顎・口腔粘膜疾患と薬 21章　漢方医学と薬物	19章　歯周治療において局所投与される薬物、歯周治療において全身投与される薬物、洗口薬、口臭治療薬等 20章　歯性感染症に用いる薬物、口腔粘膜疾患に用いる薬物等 21章　西洋医学と漢方医学の違い、漢方薬等
13	薬理学（総論、各論）の復習（重要ポイント）	
14	国家試験過去問演習	
15	期末試験	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
疾病の成り立ち及び回復過程の促進3　薬理学　第2版（医歯薬出版株式会社）	出席率 期末試験 授業態度	10.0% 80.0% 10.0%	

作成者:福原　里奈

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
看護学		歯科衛生士学科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	福原　里奈

授　業　の　概　要

看護の基礎知識と疾病の構造の変化などで歯科衛生士も看護業務について理解する。

授業終了時の到達目標

高齢社会により疾病の構造の変化などで歯科衛生士も看護業務について理解する。

実務経験有無	実務経験内容
有	看護師として８年の実務経験あり。

時間外に必要な学修

家庭学習（予習・復習）

回	テ　ー　マ	内　　容
1	病院にける歯科衛生士の役割	①歯科衛生士の活動の場 ②診療所 ③病院 ④医療チームのなかの歯科衛生士
2	看護の概念 歯科衛生士が知っておくべき看護技術	Ⅰ看護の概念 ①看護の歴史 ②看護とは Ⅱ歯科衛生士が知っておくべき看護技術 ①バイタルサインについて ②バイタルサインの測定方法
3	歯科衛生士が知っておくべき看護技術	Ⅰ患者のコミュニケーション ①コミュニケーションの種類 ②コミュニケーションを阻害する因子 Ⅱ患者への支援 小児、高齢者、将棋者、妊婦、認知症患者への接し方 Ⅲ患者の安全と安楽 体位 Ⅳ摂取
4	歯科衛生士が知っておくべき看護技術 歯科衛生士に必要な看護業務	Ⅰ看護技術 ①与薬 ②罨法 ③吸引及び吸入 Ⅱ歯科衛生士に必要な看護実務 ①患者の観察及び治療経過の記録 ②病院外来での業務
5	歯科衛生士にひつ王な看護実務	①歯科衛生士に必要な看護実務 ②入院を要する患者の看護 ③口腔ケア ④救急時の看護 ⑤洗浄・消毒・滅菌 ⑥感染対策 ⑦医療安全対策

回	テ　ー　マ	内　　容
6	歯科衛生士に必要な看護実務 地域医療活動における歯科衛生士の役割	Ⅰ歯科衛生士に必要な看護実務 医療安全対策 Ⅱ地域医療活動における歯科衛生士の役割 ①地域社会における看護のあり方 ②保健、医療、福祉チームとの連携
7	地域医療活動における歯科衛生士の役割	Ⅰ地域医療活動における歯科衛生士の役割 在宅医療における歯科衛生士の役割
8	まとめ、期末試験	まとめ

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
歯科衛生士のための看護学大意　第３版	期末試験 授業態度 出席率	80.0% 10.0% 10.0%	

作成者:川村久恵

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
健康		歯科衛生士学科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	川村　久恵

授　業　の　概　要

全身疾患（代謝・内分泌、消化器、循環器、血液、呼吸器、腎・泌尿器、免疫、感染、神経、精神、がん、産科・婦人科）について
老化と認知症について

授業終了時の到達目標

全身疾患についてポイントが理解できる。
老化と認知症について理解できる。

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

回	テ　ー　マ	内　　容
1	①全身疾患の基礎知識と歯科診療における注意点 ②代謝・内分泌疾患 ③消化器疾患	糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺疾患、胃食道逆流症、胃炎・胃癌、胃・十二指腸潰瘍、肝炎・肝硬変
2	①循環器疾患 ②血液疾患 ③呼吸器疾患 ④腎・泌尿器疾患	心疾患・不整脈、高血圧・低血圧、貧血、白血病、血友病、肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、結核、睡眠時無呼吸症候群、腎疾患、下腹尿路疾患
3	①免疫疾患・膠原病 ②感染症 ③神経疾患	アレルギー、膠原病、シェーグレン症候群、アトピー性皮膚炎、インフルエンザ、カンジダ症、後天性免疫不全、脳血管障害、てんかん、認知症、神経難病
4	①精神疾患 ②がん ③産科・婦人科疾患、妊娠 まとめ	心身症・神経症、うつ病、統合失調症、発達障害、がん、頭頸部がん、妊娠による身体の変化、更年期障害、検査値、紹介状、照会状、医療面接のポイント
5	人間と社会・介護2 科目6　老化の理解 第1章　老化に伴うこころと身体の変化と日常 第2章　高齢者と健康	老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 老化に伴うからだの変化と日常 高齢者の疾病と生活上の留意点 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点
6	科目7　認知症の理解 第1章　認知症を取り巻く状況 第2章　医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	認知症ケアの理念 認知症の概念 認知症の原因疾患とその病態 原因疾患別のケアのポイントと健康管理
7	第3章　認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 第4章　家族への支援	認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 認知症利用者への対応 介護家族の現状の理解 介護家族による本人の理解とかかわり方

回	テ　ー　マ	内　　容
8	まとめ 期末テスト	まとめ 期末テスト

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全身疾患ハンドブック 看護学①②③④ 成人看護学⑥⑧⑨ ナーシンググラフィカ レビューブック 人間と社会・介護2 老年看護学 老年看護病態疾患論 精神疾患精神看護の基礎 在宅看護論	出席率 授業態度 期末試験	20.0% 20.0% 60.0%	

作成者:大川　敏永

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
口腔衛生学		歯科衛生士学科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	大川　敏永

授　業　の　概　要

1. 口腔の健康および口腔保健の理解
2. 歯・口腔組織および口腔関連疾患（う蝕・歯周病・その他関連疾患）の理解
3. う蝕・歯周病・その他関連疾患の予防法の理解

授業終了時の到達目標

1. 口腔の健康および口腔保健に関する基礎的な知識の習得
2. 歯・口腔組織の基礎的な知識および口腔関連疾患（う蝕・歯周病・その他関連疾患）に関する基礎的な知識の習得
3. う蝕・歯周病・その他関連疾患の予防法に関する基礎的な知識の習得

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	1. 歯・口腔の健康と歯・口腔組織の基礎	1）歯・口腔の健康と予防 2）歯・口腔組織の構造および発生・成長・発育
2	2. 口腔清掃の基礎	1）歯・口腔への付着物と沈着物 2）口腔清掃の意義と方法 3）歯磨剤・洗口剤
3	3. 歯科疾患の基礎 4. う蝕予防の基礎	う蝕と歯周病および口腔関連疾患の特性 1）う蝕のメカニズム 2）う蝕の予防法と治療法
4	5. フッ化物によるう蝕予防の基礎	1）フッ化物の特性 2）フッ化物応用によるう蝕予防とそのメカニズム
5	6. 歯周疾患予防の基礎	1）歯周組織の構造 2）歯周疾患の種類と原因およびリスクファクター 3）歯周疾患の全身への影響 4）歯周疾患の予防法と治療法 5）歯周定期管理の重要性
6	7. 口腔関連疾患予防の基礎	1）口内炎・口腔癌の実態と予防 2）不正咬合の実態と予防 3）顎関節症の実態と予防 4）その他疾患の実態と予防
7	8. ライフステージごとの口腔健康管理	1）口腔健康管理の目標 2）母子口腔保健 3）乳児期～老年期の口腔保健
8	期末テスト	期末テスト

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本　保健生態学　第2版	出席率 授業態度 確認テスト 期末試験	8.0% 7.0% 35.0% 50.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:川村久恵

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
公衆衛生学		歯科衛生士学科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	川村　久恵

授　業　の　概　要

健康を左右する環境について
健康に関わる地域の役割について

授業終了時の到達目標

健康を左右する環境について理解する事が出来る。
集団を対象とする地域保健活動や他職種と歯科衛生士との関わりについて理解出来る。

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	健康を左右する環境 1）総論	保健生態学とは 健康・予防医学の概念
2	2）疫学	疫学の定義および概要 疫学の方法
3	3）人口	人口の動向 人口動態統計と生命表
4	4）健康と環境	環境の概念 空気・水・放射線・住居・衣服と健康および影響
5	5）感染症	感染症の成り立ちと予防 主な感染症の動向
6	6）食品と健康	食品保健 栄養と健康
7	健康にかかわる地域の役割 1）地域保健・公衆衛生	地域社会と地域保健の概念 地域保健の組織、地域保健の新たな概念
8	1）地域保健・公衆衛生	地域保健活動のすすめ方 健康づくり対策と地域歯科保健
9	2）母子保健	母子保健の目的および概要、現状と今後 歯・口腔について
10	3）学校保健	学校保健の意義および概要、活動と組織 学校歯科保健
11	4）成人保健	成人保健の意義と特徴、活動の現状 成人保健対策、成人期の歯科保健
12	5）産業保健	産業保健の概念および活動 職業性疾病と産業保健管理
13	6）老人（高齢者）保健・精神保健	老人（高齢者）保健の意義および行政関係法 精神保健の現状、精神障がい者の歯科保健
14	7）災害時の歯科保健、国際保健	災害時の保健医療対策と歯科保健活動 WHO・JICAの活動、世界の歯科保健の状況と戦略
15	期末テスト	学んだ内容の理解を図る

教科書・教材	評価基準	評価率	その他

回	テ　ー　マ	内　　容		
	保健生態学（医歯薬出版株式会社）	出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:四宮　美佳

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
栄養指導		歯科衛生士学科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	四宮　美佳

授　業　の　概　要

１．生化学を学び、その知識をもとに栄養学を理解させる
２．体内のエネルギー代謝や物質代謝を理解させる
３．歯、唾液、う蝕等を生化学的に学ぶ
４．栄養学を学ぶ意義、各栄養素の働きを理解させる
５．望ましい食生活、ライフスタイルを理解させる

授業終了時の到達目標

１．歯科衛生士として必要な生化学、栄養学の知識を習得する
２．歯科衛生士として栄養指導することができるよう深い知識を身につける

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	生体の構成要素	細胞の役割 生体における水 生体構成成分と栄養素
2	生体における化学反応	消化と吸収 酸素の運搬と二酸化炭素の排出 代謝
3	糖質と脂質の代謝	エネルギー代謝の全体像 糖質の代謝とエネルギーの生成 脂質の代謝とエネルギーの生成
4	タンパク質アミノ酸の代謝	たんぱく質の下垂分解 アミノ酸の代謝分解 たんぱく質の合成
5	生体における恒常性の維持	恒常性とは ホルモン系と自律神経系
6	歯と歯周組織の生化学	歯と歯周組織 結合組織 歯
7	硬組織の生化学	血清中のカルシウムとリン酸 石灰化の仕組み 骨の生成と吸収 歯の脱灰と再石灰化
8	唾液の生化学	唾液の組織と機能
9	プラークの生化学	プラークの生物活性 プラークによるう蝕発生機構 プラークによる口臭発生機構
10	栄養の基礎	食生活と栄養 栄養素の消化・吸収

回	テ　ー　マ	内　　容
11	食事摂取基準	推定エネルギー必要量 基礎代謝 日本人の食事摂取基準
12	栄養素の働き	糖質の栄養的意味 タンパク質の栄養的意味 脂質の栄養的意味 ビタミンの栄養的意味 ミネラルの栄養的意味 水の栄養的意味 食物繊維の栄養的意味
13	食生活と健康	国民の健康と栄養の現状 望ましい食生活 ライフステージ別の栄養と調理
14	食べ物と健康	食品の成分と分類 食べ物の物性
15	日本人の食事摂取基準	日本人の食事摂取基準

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
歯科衛生士教本　人体の構造と機能２　栄養と代謝	期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえて教科書、プリントを用いて予習する。

作成者:武田　和代

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科衛生士概論		歯科衛生士学科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	武田　和代

授　業　の　概　要

1　歯科衛生学とは
2　歯科衛生士の歴史
3　歯科衛生活動のための理論
4　歯科衛生過程
5　歯科衛生士法と歯科衛生業務
6　歯科衛生士と医療倫理
7　歯科衛生士の活動と組織
8　海外における歯科衛生士
【実務経験】武田和代：歯科衛生士として１１年の実務経験
これまでの臨床経験における患者とのかかわりの中から歯科衛生士としてのありかたを指導する

授業終了時の到達目標

1　歯科衛生学の定義を述べることができる
2　歯科衛生士の誕生について概要を説明できる
3　予防の概念を理解できる
4　歯科衛生過程を説明できる
5　歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務について概説できる
6　倫理の必要性について説明できる
7　歯科衛生士の活動の領域と就業の推移を説明できる
8　海外における歯科衛生士教育内容を概説できる

実務経験有無	実務経験内容
有	【武田和代】：歯科衛生士として11年の勤務経験。これまでの臨床経験における患者とのかかわりや、歯科医院でのチーム医療のありかたを歯科衛生士としての立場から指導する。

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	・歯科衛生学とは	・歯科衛生士学とは ・歯科衛生と健康とは（ＷＨＯ） ・歯科衛生活動の対象 ・歯科衛生活動の領域
2	・歯科衛生の歴史	・歯科衛生の誕生と経緯 ・歯科衛生の背景 ・歯科衛生業務の現状 ・歯科衛生士の役割と展望
3	・歯科衛生活動のための理論	・予防の概念 ①第一次予防 ②第二次予防 ③第三次予防 ・歯科衛生の考え方
4	・歯科衛生課程	・歯科衛生課程とは ・歯科衛生課程活用の利点 ・歯科衛生課程の流れ

回	テ　ー　マ	内　　容
5	・歯科衛生士法と歯科衛生業務	・歯科衛生士と歯科衛生士法 ・歯科衛生士の役割 ・関連法規 ・安全管理
6	・歯科衛生士と医療倫理	・倫理の必要性 ・医の倫理と患者の権利 ・歯科衛生と倫理 ・対象の自己決定権の尊重 ・インフォームド・コンセント ・倫理の適用
7	・確認テストの実施 ・歯科衛生士の活動と組織	歯科衛生士法と歯科衛生業務の確認 ・歯科衛生活動の現況 ・歯科衛生活動の場 ・歯科衛生士と組織
8	・海外における歯科衛生士 ・歯科衛生士として社会に出る心構え	・海外の歯科衛生士のあゆみ ・海外における歯科衛生士の現状 〈仕事場での心構え〉 ・身だしなみ ・態度とことばつかい 〈職業人としての心構え〉 ・時間を守ること ・公私の区別をはっきりする ・行動するとともにつねに反省する ・自己の健康管理 ・秘密の厳守 ・仕事上のけじめをつける 〈人との対応〉 ・相手を知り、自分を知る ・公平な態度 ・わかりやすい言葉 ・不安・被害者意識 〈観察と記録〉 ・歯科衛生士の業務記録　３年の保管 〈清掃と保全〉 〈安全保持〉

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本　歯科衛生学総論（医歯薬出版）	期末試験 出席率	80.0% 20.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:武田　和代

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
職業倫理学		歯科衛生士学科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	武田　和代

授　業　の　概　要

歯科医療倫理学を学ぶことによって、医療従事者としての自覚を持つ
１.序論
　　歯科衛生士が医療倫理を学ぶ理由
２.医療従事者としての歯科衛生士の心構え
　・歯科医療現場における医療従事者としての立場と視点
　・歯科医療現場における人間関係
３.インフォームドコンセント
　・インフォームドコンセントとは何か
　・セカンド・オピニオンについて
４.ＱＯＬ（生活の質）
　・ＱＯＬと歯科医療のかかわり方
　・歯科衛生士としてのかかわり方
５.行動学とは
　医療現場における人の行動特性について
６.チームアプローチとは
　・チームアプローチの意義と必要性
　・他職種とのチームアプローチと成功のポイント
７.医療現場におけるコミュニケーション
　・患者理解のためのコミュニケーションについて
　・歯科保険指導・歯科診療・受付の場
８.演習・まとめ
　職場での人間関係・訪問歯科保険指導
【実務経験】武田和代：歯科衛生士として１１年の実務経験
これまでの臨床経験から、歯科衛生士としての職業倫理を学生がイメージしやすいように授業を展開する

授業終了時の到達目標

・歯科衛生士として必要な倫理観を説明出来る
・インフォームド・コンセントの定義と重要性が説明できる
・セカンドオピニオンの定義と重要性が説明できる
・患者の権利が説明できる
・患者理解のためのコミュニケーション技術を理解する

実務経験有無	実務経験内容
有	【武田和代】：歯科衛生士として11年の勤務経験。これまでの臨床経験における患者とのかかわりや、歯科医院でのチーム　　医療のありかたを歯科衛生士としての立場から指導する。

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	・なぜ歯科衛生士は医療倫理を学ぶのか	・伝統的な医の倫理・新しい医の倫理 ・医療倫理の四原則 ・医療従事者の基本的義務とは ・医師のパターナリズムとその問題点 ・患者中心の医療 ・歯科医療に関する権利と義務、および歯科衛生士の社会的使命

回	テ　ー　マ	内　　容
2	・医療倫理に関する規範とバイオエシックス	・医の倫理に関する規範および国際規範 ・バイオエシックス（生命倫理学） ・バイオエシックスに関わる問題 　１）生命の始まりに関わる倫理的問題
3	・医療倫理に関する規範とバイオエシックス	・バイオエシックスに関わる問題 　２）生命の終わりに関わる問題 　３）その他の問題
4	・インフォームド・コンセント	・インフォームド・コンセントとは何か ・インフォームド・コンセントの実際 ・インフォームド・コンセントと患者中心の医療
5	・研究と医療倫理	・なぜ、研究で医療倫理が必要なのか ・倫理的配慮の要件 ・研究への協力依頼
6	・歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動	・医療現場における人の行動 ・患者の行動 ・歯科医療従事者の行動
7	・確認テスト（前回までの授業の振り返り） ・その他歯科医療従事者に必要とされること	〈ケーススタディ〉 ・入院患者の情報 ・電車の中での会話 ・ラインの書き込み ・学生実習のスケジュール表の貼りだし ・PDFファイルの共有 ・卒業生の名前を出す教師
8	まとめ	・医療倫理 ・生命倫理 ・研究倫理

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本　歯科医療倫理　第２版（医歯薬出版株式会社）	期末試験 出席率	80.0% 20.0%	【授業準備】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:市川　哲雄

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床概論		歯科衛生士学科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	市川哲雄

授　業　の　概　要

１．歯科診療と歯科診療所について
２．歯科診療の流れ

授業終了時の到達目標

１．歯科診療と歯科診療所の概要を理解する。
２．歯科診療の流れを理解する。

実務経験有無	実務経験内容
有	これまでの３６年間の歯科医師経験を生かし臨床概論の講義を行う

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	Ⅰ歯科臨床と歯科診療所	1章　歯科診療とは 2章　歯科診療所 3章　歯科診療所の業務
2	Ⅱ編　歯科診療の流れ	1章　ライフステージと歯科診療 2章　歯科診療で行うこと 1. 診査・検査・前処置
3	Ⅱ編　歯科診療の流れ	2. 小児歯 3. 矯正歯科
4	Ⅱ歯科診療の流れ	4.口腔外科
5	Ⅱ歯科診療の流れ	5.歯科保存 6.歯周治療
6	Ⅱ歯科診療の流れ	7.歯科補綴学
7～8	Ⅱ歯科診療の流れ	8.障害者歯科・高齢者歯科

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
歯科衛生士のための歯科臨床概論（医歯薬出版）	期末試験	100.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:美原　智恵

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保存修復学		歯科衛生士学科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	美原　智恵

授　業　の　概　要

１．歯の保存療法の種類について
２．保存修復について
３．保存修復における歯科衛生士の役割について

授業終了時の到達目標

１．歯の保存療法について理解する。
２．保存修復学における疾患の成り立ちと治療法について理解する。
３．保存修復における歯科衛生士の役割について理解する。

実務経験有無	実務経験内容
有	美原智恵：歯科医師として１８年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし保存修復学の講義を行う

時間外に必要な学修

【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

回	テ　ー　マ	内　　容
1	１．歯の保存療法の種類 ２．口腔検査	１．歯の保存療法の種類 　１）歯の保存療法と歯科保存学 　２）対象となる疾患 ２．口腔検査 　１）口腔検査の基礎知識と前準備 　２）医療面接 　３）現症
2～4	３．保存修復の概要	１）保存修復学とは ２）窩洞と保存修復治療 ３）保存修復治療の概要 ４）保存修復治療の準備 ５）歯の切削、窩洞形成 ６）歯髄の保護 ７）保存修復法の種類
5～6	４．直接法修復	１）コンポジットレジン修復 ２）セメント修復
7	５．間接法修復	１）インレー及びアンレー修復 ２）ベニア修復 ３）合着材および接着材
8	６．保存修復における歯科衛生士の役割 ７．期末試験	１）検査・診断時の業務 ２）保存修復時の診療補助業務 ３）器材、薬剤の保管、管理 １）期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本　歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法 授業用プリント	出席率 期末試験	10.0% 90.0%	

作成者:木村　智子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯内療法学		歯科衛生士学科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	木村智子

授　業　の　概　要

歯髄ならびに根尖歯周組織に生じる疾患の特徴や病態、診査・治療・予防法および治療に必要な器具・材料について解説する。

授業終了時の到達目標

歯髄ならびに根尖歯周組織に生じる疾患の特徴と病態を把握し、その病因を理解できる。
それらの疾患を認識するための診査法を理解できる。
各種の治療・予防法について、意義、術式、術後経過についての知識を修得し、患者に説明できる。
治療に用いる器具・材料を理解し、診療補助を行うことができる。

実務経験有無	実務経験内容
有	歯科医師として１３年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし歯内療法学の講義をする

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	歯内療法領域の主な疾患	象牙質知覚過敏症、歯髄炎、根尖性歯周組織疾患の原因、症状
2	歯髄保存療法 歯内療法における歯科衛生士の役割	歯髄鎮痛消炎療法、覆髄法の適応症と術式、使用薬剤 各種治療法における診療補助
3	歯髄の除去療法 歯内療法における歯科衛生士の役割	歯髄切断法、抜髄法の適応症と術式、使用器具・薬剤 各種治療法における診療補助
4	根管治療、根管充填 歯内療法における歯科衛生士の役割	根管治療の術式、使用器具および薬剤 根管充填の時期、使用器具および材料 各種治療法における診療補助
5	外科的歯内療法 歯内療法における歯科衛生士の役割	膿瘍切開法、根尖掻把法、根尖切除法、歯根切断法、歯根分離法、ヘミセクション、再植法、移植法、 各種治療法における診療補助
6	歯の外傷 歯内療法における歯科衛生士の役割	破折性の外傷、脱臼性の外傷、歯の保存液 各種治療法における診療補助
7	歯内療法における安全対策 歯のホワイトニング 歯内療法における歯科衛生士の役割	器具の根管内破折、根管壁穿孔、皮下気腫、器具の誤嚥、皮膚・衣服汚染の対処 ウォーキングブリーチ法、オフィスブリーチ法、ホームブリーチ法 各種治療法における診療補助
8	まとめ 後期末試験	まとめ 後期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本　保存修復・歯内療法	期末試験	100.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:二宮　雅美

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯周療法学		歯科衛生士学科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	二宮雅美

授　業　の　概　要

歯周病の発症原因と病態を理解するとともに、それらの予防法や治療法について学習し、歯科衛生士としての役割を把握する。

授業終了時の到達目標

1. 歯周組織の構造と機能について理解する。
2. 歯周病の種類および臨床像を理解する。
3. 歯周病の危険因子（リスクファクター）を説明できる。
4. 歯周病と全身疾患との関わりを説明できる。
5. 歯周病の診査法と評価法を理解する。
6. 歯周病の治療計画の立て方を理解する。
7. 歯周基本治療について説明できる。
8. 歯周外科治療について説明できる。
9. メインテナンス・SPTについて説明できる。
10. 歯周治療における歯科衛生士の役割を理解する。

実務経験有無	実務経験内容
有	二宮雅美：歯科医師として３０年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし歯周病学の講義を行う

時間外に必要な学修

次回の授業内容を踏まえて教科書を用いて予習する。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	①歯周病学概論 ②正常な歯周組織の構造と機能	①歯周病の有病状況、歯周病学を学習することの意義 ②正常な歯周組織の構造と機能
2	歯周病の分類と原因、歯周医学	歯周病の分類と原因、歯周医学
3	歯周治療の進め方 歯周病の検査	歯周病の予防と歯周治療の基本 歯周治療の進め方 歯周組織検査 咬合診査 エックス線写真による診査 その他の診査法（研究用模型、カラー写真、習癖）
4	歯周基本治療	①歯周基本治療の目的と効果 ②歯周基本治療の内容と実際 ③薬物療法
5	歯周外科治療	①歯周外科治療の目的と分類 ②歯周外科治療に用いる器材 ③種々の歯周外科治療 ④根分岐部病変の治療
6	①歯周治療としての口腔機能回復治療 ②メインテナンス	①歯周治療におけるリハビリテーションとは 　歯の固定法、歯周-矯正治療、インプラントによる治療 ②メインテナンス・SPTの重要性とその意義 　メインテナンス・SPTの内容

回	テ　ー　マ	内　　容
7	歯周治療における歯科衛生士の役割	歯周組織検査や診断時の補助、リスクファクターなどに対する指導、スケーリング・ルートプレーニング 歯周外科治療の補助、リハビリテーションとメインテナンス、診療室の器具・器材の管理 患者へのわかりやすい説明の仕方
8	期末試験	これまでに行った歯周病学の最終試験を行い理解度を評価する

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本　歯周病学　第2版（医歯薬出版株式会社） 歯科衛生士講座　歯周病学　第3版（永末書店）	出席率 確認テスト 期末試験	10.0% 20.0% 70.0%	

作成者:永尾　寛

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科補綴学		歯科衛生士学科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	永尾　寛

授　業　の　概　要

歯の欠損に伴う障害がどのようなものかを学習する。
歯科補綴学に関する器材・材料・治療の実際について学習する。

授業終了時の到達目標

歯の欠損に伴う障害を説明できる。
歯科補綴学に関する器材・材料・治療の実際について理解する。

実務経験有無	実務経験内容
有	歯科医師としての３５年の経験を生かし歯科補綴学の講義を行う

時間外に必要な学修

【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

回	テ　ー　マ	内　　容
1	Ⅰ編　補綴歯科治療に関する基礎知識	1章　歯科補綴の概要
2	Ⅰ編　補綴歯科治療に関する基礎知識	2章　補綴歯科治療の基礎知識 1章　補綴歯科治療における検査
3	Ⅱ編　補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割	2章　クラウン・ブリッジ治療
4～5	Ⅱ編　補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割	3章　有床義歯治療
6	Ⅱ編　補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割	4章　インプラント治療
7	Ⅱ編　補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割	5章　特殊な口腔内装置を用いる治療 6章　補綴歯科治療における器材
8	総まとめ	総まとめ、テスト

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
咀嚼障害・咬合異常1　歯科補綴　第2版（医歯薬出版）	期末試験	100.0%	

作成者:江口　覚

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
口腔外科学		歯科衛生士学科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	江口　覚

授　業　の　概　要

顎・口腔領域の疾患および、全身疾患との関連、その治療法について衛生士として必要な知識をみにつける。

授業終了時の到達目標

①顎口腔領域の疾患の特徴、診断法、治療法を説明できる。

②口腔病変と全身疾患の関係を概説できる。
③清潔不潔を理解し院内感染防止対策を説明できる。

実務経験有無	実務経験内容
有	歯科医師として３０年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし口腔外科学の講義を行う

時間外に必要な学修

【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

回	テ　ー　マ	内　　容
1	1. 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科 2. 顎・口腔領域の先天異常と発育異常	1.①口腔外科とは　②顎・口腔領域の特徴と主な疾患　③口腔病変と全身疾患　④基礎疾患と歯科治療 2.①歯の発育異常　②口腔軟組織野先天異常と発育異常　③口唇裂・口蓋裂　④顎の先天異常と発育異常
2	3. 顎・口腔領域の損傷と機能障害	①軟組織の損傷　②歯および歯槽の外傷　③顎骨骨折　④顎関節疾患
3	4. 口腔粘膜の疾患	①水疱形成を主徴とする疾患　②紅斑およびびらんを主徴とする疾患　③潰瘍を主徴とする疾患④白斑を主徴とする疾患　⑤色素沈着を主徴とする疾患　⑥粘膜の萎縮を主徴とする疾患　⑦口腔の乾燥を主徴とする疾患　⑧粘膜の出血および貧血を主徴とする疾患
4	5. 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 6. 顎・口腔領域の嚢胞性疾患	5.①炎症とは　②歯周組織の炎症　③顎骨の炎症　④顎骨周囲組織の炎症 6.①嚢胞とは　②顎骨に発生する嚢胞　③軟組織に発生する嚢胞
5	7. 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患	①腫瘍とは　②腫瘍の分類　③歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍　④腫瘍類似疾患
6	8. 唾液腺疾患	①唾液と唾液腺　②炎症性唾液腺疾患　③唾石症　④唾液分泌異常　⑤唾液腺腫瘍
7	9. 口腔領域の神経疾患	①顎口腔の知覚神経と運動神経　②神経痛　③神経麻痺　④神経痙攣
8	10. 口腔外科診療の実際	①口腔外科治療の流れ　②診察と診断　③清潔と不潔　④創傷の処置　⑤口腔外科小手術⑥止血処置　⑦縫合処置

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔（医歯薬出版）	出席率 確認テスト 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

作成者:江口　覚

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科麻酔学		歯科衛生士学科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	江口　覚

授　業　の　概　要

すべての患者が安全で快適な歯科治療を受けられるようになるために、歯科麻酔に関する基本的な知識を身につける

授業終了時の到達目標

①全身状態の評価に必要な基本的事項を説明できる。
②局所麻酔法について説明できる。

③精神鎮静法について説明できる。
④全身麻酔の概要を説明できる。
⑤歯科治療時の全身的偶発症を説明できる。

実務経験有無	実務経験内容
有	歯科医師として３０年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし歯科麻酔学の講義を行う

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	1. 歯科治療における歯科麻酔と患者管理	①歯科治療における歯科麻酔の立場 ②全身状態の評価と患者管理
2～3	2. 局所麻酔	①局所麻酔法 ②局所麻酔薬 ③血管収縮薬 ④局所麻酔に使用する機材 ⑤局所麻酔時の局所的偶発症
4～5	3. 精神鎮静法	①吸入鎮静法 ②静脈内鎮静法 ③精神鎮静法に際する一般的注意点
6～7	4. 全身麻酔	①術前管理 ②全身麻酔法 ③術中管理 ④麻酔覚醒と抜管 ⑤術後管理 ⑥全身麻酔下歯科治療と日帰り全身麻酔
8	5. 救急蘇生法	①歯科治療時の全身的偶発症 ②酸素療法 ③静脈確保 ④一次救命処置

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔（医歯薬出版）	出席率 確認テスト 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:江口　覚

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床検査学		歯科衛生士学科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	江口　覚

授　業　の　概　要
歯科衛生士として、個々の病態を臨床検査というエビデンスを持って理解するため、臨床検査の基礎知識と、病気を持つ患者に対するうえで必要な知識を身につける。

授業終了時の到達目標
歯科衛生士として診断、治療、予後経過のエビデンスの根拠となる臨床検査について理解し説明できること。

実務経験有無	実務経験内容
有	歯科医師として３０年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし臨床検査学の講義を行う

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	臨床検査とは	①臨床検査の倫理と安全、②検査の概要と検査成績の読み方
2～3	生体検査	①体温検査、②脈拍検査、③血圧検査、④心機能検査、⑤肺機能検査、⑥筋電図検査、⑦脳波検査、⑧血中酸素濃度検査
4～5	検体検査	①血液を用いる検査、②感染症検査、③病理検査
6～7	口腔領域の臨床検査	①口臭検査、②味覚検査、③歯科金属アレルギーの検査、④舌の検査、⑤口腔粘膜の検査、⑥唾液検査、⑦歯周組織の検査、⑧歯の検査、⑨根管内細菌培養検査
8	摂食・嚥下関連の検査	①摂食・嚥下障害のスクリーニングテスト、②摂食・嚥下障害の検査法

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
臨床検査（医歯薬出版）	出席率 確認テスト 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:久保　典子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
矯正歯科学		歯科衛生士学科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	久保　典子

授　業　の　概　要

歯科衛生士が歯科医師の診療を補助するだけにとどまらず治療を成功に導くため患者の全体像を把握して口腔衛生、食生活、矯正治療装置、口腔周囲筋に関する口腔保健の指導計画を立案実践する。

授業終了時の到達目標

1. 矯正歯科治療の歴史をたどりながら歯科矯正学の定義や知識と概念を学習する
2. 治療の必要性ベネフィットとリスク、チーム医療、歯科衛生士の役割について
3. 不正咬合の定義と特徴、治療の流れについて学習する

実務経験有無	実務経験内容
有	久保典子：歯科医師として２７年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし矯正歯科学の講義を行う

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	１．矯正歯科治療の概要	１）歯科矯正学と矯正歯科治療の目的 ２）歯科矯正学と矯正歯科治療の必要性 ３）チーム医療と歯科衛生士の役割 ３）矯正歯科治療のベネフィットとリスク ４）矯正歯科治療とチーム医療
2	２．成長発育、身体の成長発育	１）成長発育の四ツ型 ２）全身の一般的な成長発育過程について ３）骨の成長 ４）上下顎の成長発育、歯の交換の特徴 ５）咀嚼、嚥下、発音機能の発育
3	３．正常咬合と不正咬合	１）正常咬合 ２）不正咬合 ３）不正咬合の分類 ４）不正咬合の原因 ５）不正咬合の予防
4	４．矯正歯科診断	１）矯正歯科診断に必要な検査について
5	５．矯正歯科治療と力	１）矯正力、顎整形力、保定
6	６．矯正装置	１）可撤式・固定式 ２）顎内固定・顎間固定・顎外固定
7	７.矯正歯科治療の実際	１）矯正歯科治療における歯科衛生士の役割
8	８．まとめ・テスト	まとめ・テスト

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
歯科衛生士教本　咀嚼障害・咬合異常　歯科矯正（医歯薬出版）	出席率 授業態度 課題・レポート 期末試験	10.0% 10.0% 10.0% 70.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:鈴木結加里

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
小児歯科学		歯科衛生士学科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	鈴木　結加里

授　業　の　概　要

成長発達期にある小児の顎口腔領域の健全な育成が生涯に亘るQOLを支えることを認識し、顎口腔領域の疾患や異常の予防、診察・検査、診断、治療および治療の介助方法ならびに口腔健康管理の方法について理解する。

授業終了時の到達目標

胎児期から成人に至るまでの定型発達児、障害児、有病児の身体的成長、精神的・心理的発達について理解し、健全な顎口腔を育成することの臨床的意義と方法を理解するとともに、診療介助の方法を理解する。

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	小児歯科診療の基礎知識	小児歯科学概論 心身の発達
2	小児歯科診療の基礎知識	小児の生理的特長 顔面頭蓋の発育
3	小児歯科診療の基礎知識	歯の発育とその異常 歯列・咬合の発育と異常
4	小児歯科診療の基礎知識	小児の歯科疾患 小児の歯冠修復・歯内療法
5	小児歯科診療の基礎知識	小児虐待 （この回までの上記講義内容の補足）
6	小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割	小児期の特徴と歯科的問題点 小児歯科における患者と対応法
7	小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割	小児歯科における診察体系 障害児の歯科治療
8	小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割	う蝕予防 小児の口腔健康管理

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本　小児歯科	出席率 授業態度 確認テスト 期末試験 その他（私語等総合）	5.0% 5.0% 5.0% 80.0% 5.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:久保　典子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科放射線学		歯科衛生士学科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	久保　典子

授　業　の　概　要

エックス線撮影の原理とそれに伴う被曝を理解する。
患者撮影の準備やフィルム管理を学び撮影補助業務を理解する。

授業終了時の到達目標

1. 歯科疾患に応じたエックス線撮影の準備ができる。
2. 放射線の性質を理解し防護に考慮した撮影補助ができる。
3. 撮影後の現像処理やフィルム管理ができる。

実務経験有無	実務経験内容
有	久保典子：歯科医師として２７年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし歯科放射線学の講義を行う

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	歯科医療と放射線	１）歯科の画像診断 ２）放射線の性質 ３）放射線の人体への影響
2	歯科医療と放射線	１）歯科の画像診断 ２）放射線の性質 ３）放射線の人体への影響
3	エックス線画像の形成	１）フィルムと増感紙 ２）デジタル画像系
4	歯科におけるエックス線検査	１）口内法エックス線撮影 ２）パノラマエックス撮影 ３）頭部エックス線規格撮影 ４）口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 ５）パノラマエックス線撮影実際と歯科衛生士の役割
5	歯科におけるエックス線検査	１）口内法エックス線撮影 ２）パノラマエックス撮影 ３）頭部エックス線規格撮影 ４）口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 ５）パノラマエックス線撮影実際と歯科衛生士の役割
6	エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割	１）口内法撮影 ２）パノラマエックス線撮影
7	写真処理と画像保管	１）現像、定着 ２）自動現像機、処理液の管理 ３）写真の整理、保管、観察 ４）品質保証計画、機器の保守点検
8	特殊検査 まとめ・テスト	１）CT、MRI、US、造影検査など

回	テ　ー　マ	内　　容		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本　歯科放射線（医歯薬出版） 歯科衛生士テキスト　歯科放射線学（学建書院）		出席率 授業態度 実習・実技評価 期末試験	10.0% 10.0% 10.0% 70.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:井口　和美

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科予防処置論Ⅰ		歯科衛生士学科／1年	2023／通年	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	井口　和美

授　業　の　概　要

歯科予防処置の概念、法的位置づけを学び、健康増進の目的を理解する。
人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、う蝕・歯周疾患予防についての専門的知識・技術を習得する。

授業終了時の到達目標

歯科予防処置法の種類・特徴を理解し説明ができる。（フッ化物・小窩裂溝填塞）
フッ化ジアンミン銀の取り扱いを理解し説明ができる。
歯周組織の名称・役割・特徴を理解し説明ができる。
正常な歯周組織と、口腔機能について説明ができる。
沈着物、付着物の違いを理解し説明ができる。
歯周組織検査の目的を理解し、基本的な操作ができる。
シックルスケーラーの基本操作を理解し、沈着物物の除去ができる。

実務経験有無	実務経験内容
有	歯科衛生士として10年の勤務経験 これまでの歯科衛生士資格、業務経験を活かし、歯周病・う蝕予防についての講義・実習授業を行う。

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	歯科予防処置とは、健康増進・特異的防御とは	歯科衛生士法　第2条 う蝕予防・歯周病の予防レベルについて
2	歯周組織および構造	歯周組織の構造と名称
3	口腔内の沈着物　　プラーク・プラークの特徴	１．ペリクル　２．マテリアアルバ　３．食物残渣　３．プラーク ４．歯石プラークの形成過程について
4	歯石の特徴	歯石の特徴 （①沈着部位　②歯石の種類　③　歯石の特徴）
5	歯周病	歯周病の起因因子と進行過程について 　歯肉炎　歯周炎
6	歯周組織検査の種類	Millerの分類 Linde＆Nyman プロービング（４点法　６点法）
7	歯科器具の名称と役割 プロービングとは	プロービングの役割、操作方法
8	プロービング　ファントム実習	持ち方、操作法、挿入法
9	プロービング（ファントム実習）	ポジション、マキシラアングル
10	相互実習事前学習	相互実習事前の確認 　滅菌物の取り扱い 　手洗い 　身だしなみ

回	テ　ー　マ	内　　容
11～12	プロービング相互実習　①	相互実習　誘導、介助、術者（6点法）
13	シックルスケーラー操作①	基礎石膏上での操作 （手指屈伸・前腕回転・手根関節運動）
14	シックルスケーラー操作②	ファントム実習 （高さ、マキシラアングル、ポジション、挿入、操作幅）
15	シックルスケーラー操作③	ファントム実習　歯石の除去
16	患者からの情報収集	１）情報収集の目的 ２）情報収集の項目
17～18	口腔内観察相互実習　①	１）歯の本数　２）歯肉の状態　３）沈着物付着物の確認 ４）ミラー操作　５）探針操作　６）ポジション確認
19～20	相互実習　②　シックルスケーラー	沈着物除去　　①赤染め⇒沈着物除去
21	歯科予防処置論　（う蝕予防）　①	フッ化物の種類　特徴　取扱い
22	歯科予防処置論　（う蝕予防）　②	急性中毒　慢性中毒
23	歯科予防処置論　（う蝕予防）　③	フッ化物　塗布方法　手順
24	歯科予防処置論　（う蝕予防）　④	小窩裂溝填塞法　　目的　特徴
25	歯科予防処置論　（う蝕予防）　⑤	小窩裂溝填塞法　　方法と手順
26	歯科予防処置論　（う蝕予防）　⑥	フッ化ジアンミン銀 （２次予防　早期発見即時処置　塗布法と手順）
27～28	超音波スケーラーの取り扱い	超音波スケーラーの使用の目的、特徴、適応症、禁忌症
29	歯面研磨	１）目的　２）使用器具　３）手順
30	１年生まとめ・確認テスト	まとめ・確認テスト

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論	出席率 確認テスト 授業態度 期末試験	10.0% 20.0% 10.0% 60.0%	【準備学習】 相互実習前には、スケーリング実習・う蝕予防処置手順を復習し理解しておくこと。

作成者:藤本　希実子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科保健指導論Ⅰ		歯科衛生士学科／1年	2023／通年	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	藤本　希実子

授　業　の　概　要

口腔領域における健康教育の意義や重要性を理解し、その役割を担う専門職としての基礎的能力を身につける。
口腔疾患の予防・抑制手段としての口腔清掃の方法、清掃用具と使用法、清掃による効果、清掃状況の評価方法に対する知識や技術について学習する。

授業終了時の到達目標

歯科保健指導の目的を理解している。
歯科保健指導の対象となる各年齢層の特徴を理解し、症例別の歯口清掃用具・歯口清掃法が選択できる。

実務経験有無	実務経験内容
有	歯科衛生士として臨床現場で６年の実務経験 介護支援専門員、介護職員として福祉現場で６年の実務経験 これまでの臨床の場や介護現場での場面を生かし歯科保健指導の実践に役立てる

時間外に必要な学修

次回の授業内容を踏まえてテキストを予習する。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	歯科保健指導の基礎知識	１．永久歯の歯牙番号・名称について ２．乳歯の歯牙番号・名称について ３．上顎、下顎、左側、右側について ４．FDI方式　歯式について
2	歯科保健指導論の概要	１．歯科保健指導の必要性 ２．歯科保健指導の定義 ３．歯科衛生士法における歯科保健指導の位置づけ ４．健康の概念
3	口腔の基礎知識	１．口腔・口腔周囲の構造 ２．歯周組織 ３．歯冠と歯根の形態 ４．口腔の機能
4	う蝕の基礎知識 食生活指導のための基礎知識	う蝕の基礎知識 １．う蝕とは ２．う蝕の分類 ３．う蝕の原因 国民の健康と栄養の現状 １．わが国における国民の健康課題 ２．エネルギー・栄養素・食品摂取の変遷 ３．近年の食生活の特徴 ４．国民健康づくりにおける食生活改善の取り組み
5	食生活指導のための基礎知識	食品とう蝕誘発性 １．う蝕は食生活習慣病 ２．ショ糖とう蝕の関連性 ３．食品のう蝕誘発性 ４．代用甘味料 ５．う蝕予防のための食品の摂取方法

回	テ　ー　マ	内　　容
6	食生活指導のための基礎知識	１．酸蝕症と食生活 ２．咀嚼と食品 ３．特別用途食品と保健機能食品
7	保健行動支援のための基礎知識 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	行動変容に関連する理論 １．健康信念モデル ２．社会的認知理論（自己効力感） ３．変化のステージモデル ４．ストレスとコーピング ５．動機づけ面接 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理 １．患者からの情報収集 ２．全身の健康状態の把握 ３．認知機能の把握 ４．生活環境と生活背景の把握 ５．生活習慣の把握
8	校内歯科保健指導の事前準備	歯周組織図とう蝕の分類スケッチ
9	歯垢染色剤について	１．歯垢染色法の種類と方法 ２．歯垢染色剤の取り扱い
10	分析のためのデータ	１．指数 １）プラーク・歯石の指数 （1)PCR （2)OHI （3)OHI-S （4)PII （5)PHP ２)歯周疾患の指数 （1)PMA （2)PI （3)GI （4)CPI （5)根分岐部の指数 ３)う蝕の指標 （1)DMF（2)defとdmf （3）その他の指標
11	分析のためのデータ	１．指数 １）プラーク・歯石の指数 （1)PCR （2)OHI （3)OHI-S （4)PII （5)PHP ２)歯周疾患の指数 （1)PMA （2)PI （3)GI （4)CPI （5)根分岐部の指数 ３)う蝕の指標 （1)DMF（2)defとdmf （3）その他の指標
12	分析のためのデータ	１．指数 １）プラーク・歯石の指数 （1)PCR （2)OHI （3)OHI-S （4)PII （5)PHP ２)歯周疾患の指数 （1)PMA （2)PI （3)GI （4)CPI （5)根分岐部の指数 ３)う蝕の指標 （1)DMF（2)defとdmf （3）その他の指標
13	分析のためのデータ	１．指数 １）プラーク・歯石の指数 （1)PCR （2)OHI （3)OHI-S （4)PII （5)PHP ２)歯周疾患の指数 （1)PMA （2)PI （3)GI （4)CPI （5)根分岐部の指数 ３)う蝕の指標 （1)DMF（2)defとdmf （3）その他の指標

回	テ　ー　マ	内　　容
14	分析のためのデータ	問題プリント
15	口腔清掃方法 歯ブラシについて	１）手用歯ブラシ　２)電動歯ブラシ　３）音波歯ブラシ ４）超音波歯ブラシ
16	口腔清掃方法 ブラッシング方法について	１．毛先を使ったブラッシング方法 ２．脇腹を使ったブラッシング方法
17	口腔清掃方法 ブラッシング方法について	１．毛先を使ったブラッシング方法 ２．脇腹を使ったブラッシング方法
18	口腔清掃方法 歯磨剤について	１)成分　２）剤型　３）RDA フッ化物配合歯磨剤の特徴と使用方法
19	口腔清掃方法 歯磨剤について	１)成分　２）剤型　３）RDA フッ化物配合歯磨剤の特徴と使用方法
20	口腔清掃方法 歯ブラシ以外の補助用具 洗口剤について	歯ブラシ以外の補助用具 １．歯間ブラシ　２．タフトブラシ　３．スポンジブラシ ４．舌ブラシ　５．義歯用ブラシ 洗口剤　１)種類　２)基本的な使用法　３)効果的な使用法 ４）その他の使用法
21～22	赤染め相互実習	赤染め相互実習
23～26	校内歯科保健指導の準備	１．歯と歯周組織の構造について ２．むし歯の進行について ３．むし歯が発症する要因について ４．６つの食品群 ５．むし歯になりやすいところ ６．歯ブラシの持ち方と磨く順番 ７．スクラビング法 ８．バス法 ９．歯磨剤の使用法について １０．歯ブラシの交換時期について
27	校内歯科保健指導の実施	校内歯科保健指導の実施 １年次の総まとめとして今ある知識を分かりやすく相手に伝える力を身につける。
28～29	幼児対象集団指導の準備	幼児対象集団指導の準備
30	確認テスト	確認テスト

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論	期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者:四宮　直子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科診療補助論Ⅰ		歯科衛生士学科／1年	2023／通年	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位（90時間）	必須	四宮　直子

授　業　の　概　要

1. 歯科診療補助の概念
　①診療の補助とは
　②診療の補助の範囲の法的な変化
2. 医療安全と感染予防
　①医療安全
　②感染予防
　③医療廃棄物の取り扱い
3. 歯科診療における基礎知識
　①歯科診療室の基礎知識
　②歯科診療所における受診の流れ
　③共同動作
　④薬品（薬物）・歯科材料の管理
4. 歯科診療で扱う歯科材料
　①印象採得
　②模型の作製
　③合着・接着の補助
　④成形歯冠修復の補助

授業終了時の到達目標

1. 歯科診療補助の業務内容と法的解釈を説明できる。
2. 診療の補助を行う医療職種とその業務について説明できる。
3. 医療安全の概念とその対策を説明できる。
4. インシデント・アクシデント報告の目的を具体的に述べることができる。
5. 自動体外式除細動器（AED)の取り扱いができる。
6. 歯科医療における感染症の概念とその対策を説明できる。
7. スタンダードプレコーションを具体的に説明できる。
8. 感染事故時の対応を判断することができる。
9. 手指消毒やグローブの装着・脱着が実施できる。
10. 滅菌、消毒、洗浄の方法について説明できる。
11. 消毒剤の特徴と用途について説明できる。
12. 歯科用器材に応じた滅菌、消毒、洗浄を実施できる。
13. 医療廃棄物の分類と分別を説明できる。
14. 歯科診療室の環境、設備について説明できる。
15. 歯科診療所における患者対応を説明できる。
16. 共同動作の概念を述べることができる。
17. 適切なポジショニングを実施できる。
18. 器具の取り扱いや受け渡しを実施できる。
19. フォーハンドテクニックの基本動作を実施できる。
20. 歯科薬品や材料の適切な管理を説明できる。
21. 印象材の特徴、種類、用途を説明できる。
22. 各種印象材の練和と管理を実施できる。
23. 印象採得とその対応を実施できる。
24. 歯科用石膏の特徴、種類、用途を説明できる。
25. 歯科用石膏の練和と管理を実施できる。
26. 合着材や接着材の特徴、種類、用途を説明できる。
27. 合着材や接着材の練和と余剰セメントの除去を実施できる。

実務経験有無	実務経験内容
有	歯科衛生士として14年の実務経験 これまでの臨床における診療環境のマネジメントやアシスタントワークを教材として、歯科医療の現場で必要とされる歯科衛生士の役割を指導する。

時間外に必要な学修

次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	診療の補助とは 診療の補助の範囲の法的な変化	1. 歯科衛生士の業務と歯科診療補助 2. 看護師の行う診療の補助 3. 診療補助業務と他の医療職種 4. 診療の補助の範囲の法的な変化
2～3	歯科診療室の基礎知識	1. 歯科診療室の環境 2. 歯科診療室の構造と設備 3. 歯科用チェアユニット 4. その他の設備 5. 特殊な設備がある歯科診療室（手術室）
4	歯科診療所における受診の流れ	1. 歯科診療所における患者対応の基本 2. 特別な配慮が必要な患者対応
5	身だしなみの基本	1. 身だしなみの基本
6	薬品（薬物）・歯科材料の管理	1. 基礎的知識 2. 取り扱いの実際
7	感染予防	1. 手指衛生（手指消毒） 2. グローブ装着・脱着の手順 ※ラテックスアレルギーについて
8	医療安全	1. 医療安全 2. 歯科診療での補助業務 3. 医療法と医療安全対策 4. 救急処置 5. 救命処置のアルゴリズム
9～13	共同動作	1. 共同動作の概念 2. 術者・補助者・患者のポジショニング 3. 診療時のライティング 4. フォーハンデッドデンティストリー 5. 器具の受け渡し 6. バキュームテクニック 7. スリーウェイシリンジテクニック 8. 患者誘導
14～15	共同動作（相互実習）	共同動作
16	感染予防	1. 歯科医療における感染症の概念 2. 歯科医療における感染予防対策
17	印象採得	基礎知識
18	アルジネート印象材 アルジネート印象材練和法	アルジネート印象材の特徴 アルジネート印象材の種類 使用する器材の準備 印象材の計量 練和法
19	アルジネート印象材による概形印象採得	1. 種類 2. 使用する器材の準備 3. 印象材の計量 4. 練和法
20	アルジネート印象材による概形印象採得	1. 使用する器材の準備 2. 印象材の計量 3. 練和法 4. トレーへの盛り付け

回	テ　ー　マ	内　　容
21～22	アルジネート印象材による概形印象採得	1. 印象採得 2. 印象体の保管 3. トレーの後始末
23	寒天印象採得時の補助 合成ゴム質印象の補助 その他の印象材の取り扱い	1. 寒天印象材の準備 2. 寒天-アルジネート連合印象 3. シリコーンゴム印象材による精密印象採得の補助 4. 個人トレー. 個歯トレーを使用した精密印象 5. モデリングコンパウンド 6. 酸化亜鉛ユージノール印象材
24～25	アルジネート印象材による概形印象採得（相互実習）	概形印象採得
26～27	感染予防	滅菌と消毒
28～29	衛生材料	1. 種類 2. 作製 3. 取り扱い
30	医療廃棄物の取り扱い	1. 廃棄物の概要 2. 歯科診療室で発生する廃棄物
31～33	模型の作製	1. 歯科用石膏の基礎知識 2. 歯科用石膏の練和 3. 歯科用石膏の管理方法
34～38	合着・接着の補助	ポリカルボキシレートセメント、グラスアイオノマーセメント、接着性レジンセメント、リン酸亜鉛セメント 1. 合着材・接着材の基礎知識 2. 練和法 3. 合着・接着の際に患者に説明しておくべき事項
39	成形歯冠修復の補助	1. 基礎知識 2. 成形歯冠修復材の種類 3. コンポジットレジンの取り扱い 4. グラスアイオノマーセメントの取り扱い
40～41	アルジネート印象材による概形印象採得（相互実習）	概形印象採得
42	共同動作（相互実習）	共同動作
43	合着材・接着材の練和	セメント練和
44	トレーセッティング	1. 保存修復用器材 2. 歯内療法用器材
45	トレーセッティング	1. 歯科補綴用器材 2. 口腔外科小手術用器材

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論　第2版（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本　歯科材料（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本　歯科機器（医歯薬出版）	出席率 確認テスト 実習・実技評価 期末試験	5.0% 5.0% 20.0% 70.0%	

作成者：髙吉 亮平

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
福祉医療（講義）		歯科衛生士学科／1年	2023／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位（60時間）	必須	髙吉 亮平

授　業　の　概　要

【第1巻】
1　職務の理解
　　介護職の仕事内容や働く現場の理解

2　介護における尊厳の保持・自立支援
　　人権と尊厳を支える介護　･･･人間の尊厳と自立、ﾉｰﾏﾗｲｾﾞｰｼｮﾝの意義、個人の尊厳と法制度
　　高齢者虐待、利用者の尊厳の保持
　　自立に向けた介護　･･･介護の基本視点、介護予防

授業終了時の到達目標

現代社会における福祉の理念の重要性を理解するとﾄﾓﾆ、地域福祉・住民の連携の必要性を学ぶ。
身体介護や生活援助の基本を理解し、共感・傾聴など対人ｻｰﾋﾞｽにおけるﾎﾟｲﾝﾄを身につけ、医療・福祉の現場で実践することができる。

実務経験有無	実務経験内容
有	

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	導入 日本社会の現状の理解	超高齢社会の現状についての理解
2	人権と尊厳の保持①	人間の尊厳と自立 ﾉｰﾏﾗｲｾﾞｰｼｮﾝとは QOL、ADL、IADLについての理解
3	人権と尊厳の保持②	個人の尊厳と法制度
4	人権と尊厳の保持③	ICFの理念と概要 介護分野におけるICFの活用
5	人権と尊厳の保持④	高齢者虐待 成年後見制度 介護予防とは、介護予防の必要性
6	介護の基本①	介護職の役割 介護環境の理解 訪問介護、施設介護の原則
7	介護の基本②	介護の専門性 介護にかかわる職種 医療と介護の連携の必要性
8	介護の基本③ 介護における安全の確保とﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ①　6/14	介護ｻｰﾋﾞｽの公共性と職業倫理 家族・社会に対する責任 ｻｰﾋﾞｽ提供と安全管理体制 事故の分類と実態

回	テ　ー　マ	内　　容
9	介護における安全の確保とﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ②　6/21 介護保険制度①	感染対策のための基礎知識 介護保険制度創設の背景
10	介護保険制度　6/28	介護保険制度創設までの高齢者福祉施策
11	介護保険制度　　7/5	介護保険制度の概要 基本的なしくみ、保険給付と種類、認定手順
12	介護保険制度	介護保険制度の概要 基本的なしくみ、保険給付と種類、認定手順 地域支援事業
13	介護保険制度 医行為と介護　　7/19	地域支援事業、介護保険制度の改正 地域包括支援センター
14	医行為と介護・リハビリ	医療との連携とリハビリテーション
15	前期末試験	前期末試験
16	障害者福祉制度	障害者の自立、ICF、障害者基本法、障害者総合支援法、 障害者施策の流れ
17	障害者福祉制度	障害者自立支援法 障害者総合支援制度
18	障害者福祉制度 障害の医学的側面	障害福祉ｻｰﾋﾞｽの体系 ｻｰﾋﾞｽ提供の流れ 介護保険制度と障害福祉ｻｰﾋﾞｽ
19	障害者総合支援制度③ 障害の医学的側面①	身体障害、精神障害、知的障害、内部障害、発達障害、 高次脳機能障害、難病　等について
20	障害の医学的側面②	身体障害、精神障害、知的障害、内部障害、発達障害、 高次脳機能障害、難病　等について
21	介護におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ①	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝとは 言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと非言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
22	介護におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ②	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの技法 （傾聴・共感・受容） 質問・相づち・繰り返しなどの技法の理解
23	介護におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ③	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの技法
24	介護におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ④	
25	介護におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ⑤	相談援助技術の基本 状態別コミュニケーション
26	介護におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ⑥	
27	介護におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ⑦	報告・連絡・相談・記録の書き方

回	テ　ー　マ	内　　容
28	介護過程③	事例検討②
29	振り返り	学習到達度の振り返り
30	後期末テスト	

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「介護職員初任者研修ﾃｷｽﾄ」　一般財団法人長寿社会開発ｾﾝﾀｰ	期末試験 課題・レポート 出席率 授業態度	50.0% 20.0% 10.0% 20.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

作成者：髙吉 亮平

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
福祉医療（演習）		歯科衛生士学科／1年	2023／通年	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	髙吉 亮平

授　業　の　概　要

１．高齢者の心理を理解する
２．加齢による、体の変化を理解をする
３．介護の基本動作について理解をする
４．ＡＤＬに合わせた介護技術を習得する

授業終了時の到達目標

１．安全な食事介助ができる
２．身体能力に合わせた衣服の着脱ができる
３．車いす介助、補講介助ができる
４．入浴介助の基本が理解できる
５．排泄介助の理解

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

回	テ　ー　マ	内　　容
1	生活機能の理解、法的根拠に基づく介護とは	ＩＣＦの理解、　活動と参加について　理論に基づく介護
2	利用者選択によるサービスの利用	要介護度と利用者の状態像　要支援・要介護とは 介護予防プログラム
3	高齢者の心理	学習と記憶の基礎知識
4	食事介助	食事の意味、自立度の把握、食事姿勢と誤嚥について
5	食事介助	ベッドサイドでの食事介助
6	口腔ケア	口腔ケアの目的と方法
7	寝具の整えかた	寝具の衛生管理とシーツの交換方法
8	衣類の着脱	着がえの持つ意味と、衣類着脱の基本的方法
9	浴衣の着替え実習	脱健着患　（要介護４）
10	浴衣の着替え実習	脱健着患（要介護４）
11	前開きパジャマの着替え実習	脱健着患（要介護２）　立位
12	前開きパジャマの着替え実習	脱健着患（要介護２）　立位
13	前開きパジャマの着替え実習	脱健着患（要介護３）　仰臥位
14	前開きパジャマの着替え実習	脱健着患（要介護３）　仰臥位

回	テ　ー　マ	内　　容
15	車椅子介助実習	車椅子の取り扱い　、安全な移動方法
16	車椅子介助実習	安全な移乗方法とは（ベッドから車いす、車いすからベッドへ）
17	車椅子介助実習	校外実習（車道、公園での介助法）
18	歩行介助	歩行介助の用具と使い分け
19	歩行介助実習	２動作補講、３動作補講について
20	歩行介助実習	階段での歩行介助法
21	視覚障がい者への介助	ガイドヘルプの役割と注意点
22	視覚障がい者への介助	歩行介助実習
23	身体の清潔	清拭の目的と方法・注意点
24	身体の清潔	入浴介助
25	レクリエーション	レクリエーションの目的と方法
26	排泄の介護・介助	排泄介助の留意点
27	排泄介助演習	紙おむつの交換方法と留意点
28	車いすの介助　復習	車いすの移乗演習
29	パジャマの着替え　復習	パジャマの着脱　演習
30	寝具の交換	シーツの交換　演習

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
介護職員初任者研修テキスト　第３巻 こころとからだのしくみ	出席率 授業態度 課題・レポート 確認テスト	10.0% 10.0% 10.0% 70.0%	【準備学習】 各単元ごとに演習項目を復習・理解し介護実技力を習得する